

特別活動と小学校社会科1年の内容に関する研究： 昭和27年（1952）発行小学校社会科1年教科書2社 の比較から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上岡, 学 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/498

特別活動と小学校社会科1年の内容に関する研究

—昭和27年（1952）発行小学校社会科1年教科書2社の比較から—

A Study of Relations with “Extra-Curricular Activities (2008)” and
“Social Studies (grade 1: 1952)” in Japanese Elementary School.
— Analysis of Two Social Studies Textbooks (grade 1: 1952) —

上 岡 学^{*}
UEOKA Manabu

日本の戦後（1945（昭和20年）以降）の初等教育において、特別活動と社会科と生活科の関連は深い。現在の生活科の源流は低学年の社会科と理科である。本研究においては、生活科の源流の一つである社会科1年の内容と特別活動の関連について考察していく。社会科1年の内容を対象とする理由は、文部省検定教科書が存在しなかったという特殊な状況での内容について検証しようと考えたからである。文部省の検定がないということは自由度が高く、様々な試みがされていると考えられる。本研究では小学校社会科1年の副読本として民間教科書会社で戦後初めて作成された東京書籍（1952）⁽¹⁾と教育出版（1952）⁽²⁾の小学校社会科1年副読本（教科書採択率の高い2社）を対象として分析を行い、特別活動との関連を検証する（文部省著作の2年～6年の教科書はこれ以前に存在する）。

1. 小学校社会科1年副読本（入門書）の特異性

厳密な意味で小学校社会科1年の教科書は戦後昭和23年以降存在しない。教科書制度において教科書とは、教科における文部書の検定を受けた書籍である。その証拠に教科書として検定を受け、認められたものにはすべて表紙に「文部科学省（文部省）検定済教科書」と明記される。冒頭の「厳密な意味」とはこのことである。小学校社会科1年の教科書は存在しないのだが、副読本（入門書：以下略）は存在した。その副読本も昭和28年度（1953）より存在することとなったことが次の文章から明らかである。

東京書籍（1952）の巻末に「先生と家庭の方々へ」⁽³⁾という文章が記述されており、その冒頭に「小学一年生の社会科学習は、いままで教科書がなくてむずかしいといわれていました。そこで少しでも学習しやすくするために、この本を編集しました。」⁽³⁾とある。そして、後半部に「改訂社会科学習指導要領に準拠する。」と明記されている。教育出版（1952）では、「私どもの編集した、この社会科教科書入門書は、文部省の学習指導要領に準拠し、」（註：「據」は「拠」の旧字体）⁽⁴⁾とある。また、「社会科教科書としては第二学年用から編集された」⁽⁵⁾、「教科書は第二

^{*}武蔵野大学教育学部

学年から使用されることになっていた」⁽⁶⁾の記述からも明らかである。

その他の資料として「社会科教科書の独自な点として、第2学年以上で教科書が発行されなかったことをあげることができる。第1学年は発行する必要がないものと考えられ、文部省著作教科書は発行されなかった。民間の検定教科書になると、各教科書会社は第1学年用教科書を副読本として発行していった。」⁽⁷⁾とある。さらにその理由について次のような記述がある。「最後に注意しておきたいのは、この小学校用総合社会科教科書は、2年生用からであった、という点である。1年生用は作られなかった。その理由はわからない。重松の回想によれば、「当時の極度の用紙不足と、社会科という新しい教科の性質からいって、また社会科の教科書も知識を配列したものではなくなったため、1年生用はなくてもよからう、ということであった」という。すでに触れたようにハークネスもヘファナンも、参考書ないしは読み物教科書は必要とみなし、その作成を提案してはいたが、1年生用についてはそれも作成されずに終わった。」⁽⁸⁾

すなわち、小学校社会科1年で配布された書籍は、教科書ではなく学習指導要領に準拠した副読本なのである。そしてこれ以降、平成元年の学習指導要領改定において低学年社会科が生活科に吸収されるまで小学校1年には社会科教科書は存在しなかったのである。しかし、2年以上の教科書と同等の副読本は存在していた。それは形状も内容も教科書とほぼ同一であるためによほど教育に詳しくない限り教科書と見分けがつかないような体裁であった。そのことにより今でも生活科以前に社会科の教科書は1年から存在していたと誤認することが多い。これが小学校社会科1年副読本の特異性である。

2. 内容分析

(1) 学習指導要領（1951）の目標と特別活動・生徒指導との関連

昭和26年（1951）学習指導要領（試案）に小学校社会科1年の目標として、表1の14項目を掲げている。（<https://www.nier.go.jp/guideline/s26es/index.htm>）この目標からわかることは、1年社会科が教科のみならず現在の教育課程の一つである特別活動や生活指導を含んでいるということである。これらとの関係を整理すると表1の通りとなる。

表1からは社会科1年生の14項目の目標は、特別活動や生活指導の内容と関わりが深いことがわかる。これは当時の社会科が児童の日常の生活面や発達段階を考慮し、身の回りの生活から育てるという発想であったことによると考えられる。

表1. 小学校社会科1年の目標（学習指導要領（1951））と特別活動・生活指導との関連（上岡）

小学校社会科1年目標	関連
1. おとなはみな何かの仕事をもっている。	
2. 家の人たちはみな何かの役割をもっている。	
3. 親は常にこどものために配慮している。	
4. 家ではわたくしたちの衣食住など毎日の暮らしの世話をしてくれる。	
5. 家の人々は植木・作物・家畜などの世話をしている。	

6. 人々は家庭や学校でみんなで楽しい生活をするためにいろいろな行事をしたり施設を設けたりする。	特別活動（学校行事）
7. 互に親切を尽し合えばわたくしたちの生活は楽しくなる。	特別活動（学級活動） 生活指導
8. 規則をよく守れば楽しく遊ぶことができる。	特別活動（学級活動） 生活指導
9. 注意して物を整頓したり、飾ったりすれば、家庭や学校をもっと美しくすることができる。	特別活動（学級活動）
10. 家庭や学校では健康と安全のために必要な施設を設けている。	特別活動
11. からだがじょうぶであると、楽しい生活ができるようになる。	特別活動（学級活動） 生活指導
12. 人々は種々の交通機関によってゆききしたり、物を運んだりする。	
13. ほかの人といっしょに生活するためには時間をよく守ることがたいせつである。	生活指導
14. ほかの人といっしょに生活するためには、決して人に迷惑をかけてはならない。	生徒指導

（2）東京書籍（1952）の小学校社会科1年副読本の方針

東京書籍（1952）小学校社会科1年の巻末⁽³⁾には、「先生と家庭の方々へ」というページを設け、内容についての方針が8つ記述されている（表2）。この8つの方針は、前述の学習指導要領（1951）をもとに副読本を作成するときの指針である。当時は、特別活動という用語が存在していないのでこの8つの方針にはあらわれていないが2、3、7が特別活動、生活指導との関連が深いと考えられる。

表2. 東京書籍（1952）小学校1年社会副読本8つの方針

1	改訂社会科学習指導要領に準拠する。
2	一年生の身体的発達を考慮して、運動なども特に養護の面から扱う。
3	一年生の心理的発達を考慮して、生活指導に重点をおく。
4	想像力に富み情動的な動きがいちじるしくて、自己中心的な傾向を持つこの時期の心理的特質を考慮して、どの場面においても、児童がみずから主人公となって主体的に学習できるようにする。
5	場面を選ぶには、ある地域にかたよることなく、どの地域でもごく自然に使用できるようにくふうする。
6	絵はできるかぎり写實的で、しかも児童が興味を持って学習できるようなものにする。
7	画面に出てくる人物のいろいろな動きを観察することによって、ただちに自分の毎日の生活の反省の材料とすることができるようにする。
8	いわゆる教科書風の無味乾燥を避けて、児童が楽しんで見られ、常に親しみをおぼえるものにする。

（3）東京書籍（1952）の小学校社会科1年生副読本の内容

表3は、東京書籍（1952）の小学校社会科1年生副読本の内容である。表2の8つの方針に則り、作成されていることがわかる。第1単元の「にゅうがく」は、現在の生活科に引き継がれている内容である。

前述の「先生と家庭の方々へ」の第1単元の解説に「家庭中心の生活をしていた児童がはじめて学校にはいると、環境のあまりの変化にとまどいし、なかなか団体生活になじめないことがあります。一年生の社会科では、この団体生活になれさせることがまず第一に必要です。また、は

じめて家庭をはなれて独立行動をとるようになった児童の守るべき注意をはっきり知らせることも大切なことです。第1単元の「にゅうがく」はこのために設けられました。」(註:「とまどいし」は「とまどいする」の連用形)と説明されている。

現在、小1プロブレムが問題となり、スタートカリキュラムなどが計画、実施されているが、その原点がここにある。

表3. 東京書籍 (1952) (註:ナンバリング, 実施月は筆者による)

	単元名と内容項目	月	ページ	内容	学習活動の目標
第1単元 にゅうがく					
(1)	にゅうがく	4月	2-3	入学式当日のようす	入学の意義と誇り, 家庭の愛情
(2)	がっこうめぐり	4月	4-5	校長先生の話:職員室,玄関, 使丁室(現:主事室), 衛生室(現:保健室), 手洗場	学校の構成, 学校になれる
(3)	ともだち	4月	6	校庭での遊び, 学級花壇	みんなで仲よくする, 元気に遊ぶ
(4)	がっこうのいきかえり	4月	7	道草, 踏切, 右側通行, いろいろな乗物	安全な登校, 下校, 家庭から学校までの道順, 規律, 交通道德
第2単元 じょうぶなからだ					
(5)	こどものひ	5月	8-9	こいのぼり, 五月の節句, 運動会	楽しい行事, 元気な生活
(6)	しんたいけんさ	5月	10-11	衛生室, 身体検査	健康を保つためのくふう
(7)	えんそく	5月	12-13	清潔な服装	団体行動の規律
(8)	つゆのころ	6月	14-15	室内遊戯, 不注意による病気	入梅季と保健
第3単元 わたくしのいちにち					
(9)	わたくしのいちにち	7月	16-17	起床, 洗面, 運動, 午前午後の学習, 水遊び, 行水, 就寝	規律正しい生活, 自然に親しむ, 礼儀を守る
第4単元 きまりよく					
(10)	きまりよく	9月	18-19	身のまわりの整理(学校, 家庭)持ち物の記名と整理	規律と整とん, 着実な学習
(11)	おおどおり	9月	20-21	バス通り, バスの乗り方	交通道德と交通機関の利用, 保全
(12)	うんどうかい	9月	22-23	元気に運動する:団体の秩序	健全な生活, 団体行動の規律
第5単元 きんじょのひとたち					
(13)	となりどうし	10月	24-25	近隣交際のようす, 友だちと遊ぶ	近隣との親密な交際, 相互扶助
(14)	おまつり	10月	26-27	にぎやかな祭, えんにちの店	楽しい行事, 敬老
(15)	とりいれ	10月	28-29	農家, 仕事の進め方	農家の生活, 相互扶助, 働く人への感謝
第6単元 たのしいおうち					
(16)	てつだい	11月	30-31	家の人々の仕事, 自分の仕事	家の人たちの仕事の分担, 手伝い, 働くことの意義
(17)	かいもの	12月	32-33	家の人が買物をする店, 品物	日用品の入手方法
(18)	みんなそろって	12月	34-35	一家団らん, 楽しい遊戯, みんなの喜び	楽しい家庭生活, 家庭の愛情
第7単元 おしょうがつ					
(19)	おしょうがつ	1月	36-37	正月の情景	新年を迎える心構え, 礼儀
(20)	おばさんのうち	1月	38-39	客としてのいろいろな作法やあいさつ	近隣および親類との交際
第8単元 もうすぐ二ねんせい					
(21)	まめまき	2月	40-41	節分の行事, 鬼の面の工作	楽しい行事, 学校の美化
(22)	げんきにあそぼう	2月	42-43	学校の遊び, 学級花壇の手入れ	元気に遊ぶ, 自然に親しむ, 学校の美化
(23)	がくげいかい	3月	44-45	学芸会, 家の人を招待する, 三月の節句	楽しい行事, 団体行動の規律, 父母への感謝, 学校の美化

（４）教育出版（1952）の小学校社会科1年副読本の内容

表4は、教育出版（1952）の小学校社会科1年副読本の内容である。第1単元は、東京書籍と同様の内容の「たのしいがっこう」であり、スタートカリキュラムである。東京書籍の「内容」「学習活動の目標」に対応する項目が「学習指導の主眼点」である。内容は両者を比較すると異なるところがあり、教科書会社の個性が表れている。

表4. 教育出版（1952）（註：ナンバリング、実施月は筆者による）

	単元名と内容項目	月	ページ	学習指導の主眼点
第1単元 たのしいがっこう				
(1)	きょうから一ねんせい	4月	1	①入学のよろこび②小学生としての自覚③学校の先生④挨拶⑤新しい集団生活に対するオリエンテーション
(2)	みんなのきょうしつ	4月	2-3	①新しい環境②返事③最小限のもちもの④所有物と記名⑤うけもちの先生
(3)	がっこうへいくみち	4月	4-5	①登下校の道②危険な場所③道草④友達
(4)	たのしいがっこう	4月	6-7	①学校の施設②特別教室③上級生（いろいろな勉強）
(5)	はるのえんそく	4月	8-9	①団体行動②レクリエーション③季節感覚④昆虫や草花
第2単元 じょうぶなからだ				
(6)	しんたいけんさ	5月	10	①楽しい遊び②体格③なかよしこよし
(7)			11	④健康⑤校医さん⑥養護婦さん
(8)	よいしせい	5月	12	①姿勢②健康と姿勢とのつながり
(9)	なんでもたべよう	5月	13	①偏食②食事をとる態度③清潔④栄養
(10)	こいのぼり	5月	14-15	①体育②競技のしかた③協力④誕生暦⑤元気な子供
(11)	あさからばんまで	6月	16-17	①一日の生活②規律③よい習慣④お手伝
第3単元 なつがきた				
(12)	たなばた	7月	18-19	①年中行事②天体に関心をもつ③工作④近所の人との楽しみ
(13)	うれしいなつやすみ	7月	20-21	①夏休みの生活指導②お手伝③遊び④季節感覚⑤旅行
(14)	てんらんかい	9月	23-24	①工作②採集③陳列会④友達作品
第4単元 わたくしのともだち				
(15)	わたくしのうち	9月	24-25	①家族②いろいろな職業③仕事の分担④手伝
(16)	ともだちのうち	9月	26-27	①友達②いろいろな職業③社会のつながり
第5単元 いなかとまち				
(17)	とりいれ	10月	28-29	①農業②勤労の尊さ③感謝④交通⑤学校園
(18)	いなかとまち	10月	30-31	①町と農村のつながり②生産と消費③家畜
(19)	あきまつり	10月	32-33	①季節感覚②親類③近所のつきあい④果物
第6単元 ふゆじたく				
(20)	ふゆのしたく	11月	34-35	①生活設計②自然に適應する③冬の衣食住
(21)	ゆきやこんこ	12月	36-37	①子供は風の子②季節感覚③冬の遊び④歌曲
(22)	ひのようじん	12月	38-39	①冬の衛生②採暖の工夫③火の用心④消防夫
第7単元 おしょうがつ				
(23)	おしょうがつ	1月	40-41	①年中行事②家庭生活とレクリエーション③親類
(24)	まめまき	2月	42-43	①行事と生活②社会の慣習について③工作④数え方
第8単元 もうすぐ二ねんせい				
(25)	このごろのおてんき	3月	44-45	①季節感覚②ひなまつり③遠隔地への関心
(26)	もうすぐ二ねんせい	3月	46-47	①新しい希望②反省③引継ぎ④学会会⑤プログラム

(5) 学習指導要領（2008）特別活動の内容と伝承的行事

現在（2016）使用されている学習指導要領は2008年改訂のものである。その中で小学校特別活動は、各活動として4つ掲げられている。「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」である。これらの中で小学校社会科1年の内容と重なりがあるものは、表1より「学級活動」「学校行事」であった（表5、表6）。学級活動の内容は、表5の通りである。(1)は集団を対象とした教育である。集団の中で集団を対象として集団を育てることが目的である。(2)は個人を対象とした教育である。集団の中で個人を対象として個人を育てることが目的である。表6は、学校行事の5つの内容である。学校行事は、昭和33年（1958）学習指導要領では、「特別教育活動」と「学校行事等」と分けられていて独立した教育内容であったが、昭和43年（1968）学習指導要領において統合され、「特別活動」となった経緯がある。

今回の社会科と特別活動との比較分析をする上で、現行の学習指導要領（2008）の特別活動の分類を使用した。ただし、当時の副読本に比較的标准に登場する内容であるにも関わらず、現行の特別活動の分類では該当しない内容が一つ存在した。それは「伝承的行事」である。伝承的行事とは、日本における一般的伝統行事である。お正月、豆まき、節句などである。これらの内容は、現在は宗教や文化の多様性という観点から教科書等では、取り上げられていることはほとんど見当たらず、学校行事でも名称等も含め減少している（たとえば「たなばた集会」などの名称も改称されていることがある。一方で保育園や幼稚園では現在でも園の行事として実施されていることが多い。）。そこで、本研究では分類のため、「(伝承的)」や「(伝承的行事)」という表記を用いることとした。

表5. 学級活動の内容

(1) 学級や学校の生活づくり
ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
ウ 学校における多様な集団の生活の向上
(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全
ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
イ 基本的な生活習慣の形成
ウ 望ましい人間関係の形成
エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解
オ 学校図書館の利用
カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

表6. 学校行事の5つの内容

(1) 儀式的行事
(2) 文化的行事
(3) 健康安全・体育的行事
(4) 遠足・集団宿泊的行事
(5) 勤労生産・奉仕的行事

3. 各副読本と特別活動との比較分析

（1）東京書籍（1952）と特別活動（2008）との比較分析

東京書籍と特別活動との比較・対応させた表が表7である（さらに関連のあるものだけを抽出した表が表8である）。内容項目は、47項目となる。学級活動に対応する項目数は12項目であるが、集団に対する教育を示している「学級活動（1）」に関しては、2項目である。すなわち、社会科においては個人に対する教育が主であり、特別活動が集団を主とするところに棲み分けがされている。

一方、学校行事に対応する項目は、10項目である。現行の5行事について、平均的に存在していることがわかる。特徴的なことは、前述の「伝承的行事」が3項目存在することである。当時の学校教育が伝承的行事を積極的に取り入れ社会科教育や生活指導を行っていたことが数値から推測できる。

また、学級活動関連数と学校行事関連数では、12：10であり、ほぼ同じ割合であることが明らかになった。このことから個の指導は社会科の中で行い、集団の指導は学校行事の中で行うということが推察できる。社会科で扱う学校行事は、実際の学校行事そのものではなく、いわば学校行事へのガイダンス的な内容である。

表7. 小学校社会科1年副読本比較 東京書籍（1952）

	単元項目	内容項目（47）	特別活動内容
(1)	にゅうがく	(1)－1入学の意義と誇り	儀式的行事
		(1)－2家庭の愛情	
(2)	がっこうめぐり	(2)－1学校の構成	
		(2)－2学校になれる	
(3)	ともだち	(3)－1みんなで仲よくする	学級活動（1）ウ
		(3)－2元気に遊ぶ	
(4)	がっこうのいきかえり	(4)－1安全な登校、下校	学級活動（2）カ
		(4)－2家庭から学校までの道順	
		(4)－3規律	
		(4)－4交通道德	
(5)	こどものひ	(5)－1楽しい行事	学校行事（伝承的）
		(5)－2元気な生活	学級活動（2）カ
(6)	しんたいけんさ	(6)－1健康を保つためのくふう	健康安全・体育的行事
(7)	えんそく	(7)－1団体行動の規律	遠足・集団宿泊的行事
(8)	つゆのころ	(8)－1入梅季と保健	学級活動（2）カ
(9)	わたくしのいちにち	(9)－1規律正しい生活	学級活動（2）イ
		(9)－2自然に親しむ	
		(9)－3礼儀を守る	
(10)	きまりよく	(10)－1規律と整とん	学級活動（2）イ
		(10)－2着実な学習	

(11)	おおどおり	(11)－1交通道德と交通機関の利用，保全	
(12)	うんどうかい	(12)－1健全な生活	学級活動（2）イ
		(12)－2団体行動の規律	学級活動（1）ウ
(13)	となりどうし	(13)－1近隣との親密な交際	
		(13)－2相互扶助	
(14)	おまつり	(14)－1楽しい行事	学校行事（伝承的）
		(14)－2敬老	
(15)	とりいれ	(15)－1農家の生活	
		(15)－2相互扶助	勤労生産・奉仕的行事
		(15)－3働く人への感謝	
(16)	てつだい	(16)－1家の人たちの仕事の分担	
		(16)－2手伝い	
		(16)－3働くことの意義	勤労生産・奉仕的行事
(17)	かいもの	(17)－1日用品の入手方法	
(18)	みんなそろって	(18)－1楽しい家庭生活	
		(18)－2家庭の愛情	
(19)	おしょうがつ	(19)－1新年を迎える心構え，礼儀	
(20)	おばさんのうち	(20)－1近隣および親類との交際	
(21)	まめまき	(21)－1楽しい行事	学校行事（伝承的）
		(21)－2学校の美化	学級活動（2）エ
(22)	げんきにあそぼう	(22)－1元気に遊ぶ	学級活動（2）カ
		(22)－2自然に親しむ	
		(22)－3学校の美化	学級活動（2）エ
(23)	がくげいかい	(23)－1楽しい行事	文化的行事
		(23)－2団体行動の規律	文化的行事
		(23)－3父母への感謝	
		(23)－4学校の美化	学級活動（2）エ

表8. 小学校社会科1年副読本比較 東京書籍（1952）

	単元項目	内容項目	特別活動内容
(1)	にゅうがく	(1)－1入学の意義と誇り	儀式的行事
(3)	ともだち	(3)－1みんなで仲よくする	学級活動（1）ウ
(4)	がっこうのいきかえり	(4)－1安全な登校，下校	学級活動（2）カ
(5)	こどものひ	(5)－1楽しい行事	学校行事（伝承的）
		(5)－2元気な生活	学級活動（2）カ
(6)	しんたいけんさ	(6)－1健康を保つためのくふう	健康安全・体育的行事
(7)	えんそく	(7)－1団体行動の規律	遠足・集団宿泊的行事
(8)	つゆのころ	(8)－1入梅季と保健	学級活動（2）カ
(9)	わたくしのいちにち	(9)－1規律正しい生活	学級活動（2）イ
(10)	きまりよく	(10)－1規律と整とん	学級活動（2）イ

(12)	うんどうかい	(12)－1健全な生活	学級活動（2）イ
		(12)－2団体行動の規律	学級活動（1）ウ
(14)	おまつり	(14)－1楽しい行事	学校行事（伝承的）
		(15)－2相互扶助	勤労生産・奉仕的行事
		(16)－3働くことの意義	勤労生産・奉仕的行事
(21)	まめまき	(21)－1楽しい行事	学校行事（伝承的）
		(21)－2学校の美化	学級活動（2）エ
(22)	げんきにあそぼう	(22)－1元気に遊ぶ	学級活動（2）カ
		(22)－3学校の美化	学級活動（2）エ
(23)	がくげいかい	(23)－1楽しい行事	文化的行事
		(23)－2団体行動の規律	文化的行事
		(23)－4学校の美化	学級活動（2）エ

（2）教育出版（1952）と特別活動（2008）との比較分析

教育出版と特別活動との比較・対応させた表が表9である（さらに関連のあるものだけを抽出した表が表10である）。内容項目は、100項目となる。学級活動に対応する項目数は13項目であるが、集団に対する教育を示している「学級活動（1）」に関しては、1項目である。これも前項の東京書籍と同様、社会科においては、個人に対する教育が主であり、特別活動が集団を主とするところに棲み分けがされている。

一方、学校行事に対応する項目は、18項目である。現行の5行事について、東京書籍とは異なり「健康安全・体育的行事」が8項目であり、有意に多いことがわかる。さらに8項目の内訳を分析すると5項目が身体検査や健康に関する健康安全領域であり、3項目が運動会に関する体育的領域である。また、東京書籍同様、「伝承的行事」が3項目存在する。

また、学級活動関連数と学校行事関連数では、13：18であり、教育出版に関しては学校行事関連が多いことが明らかである。

表9. 教育出版（1952）

	単元項目	内容項目	特別活動内容
(1)	きょうから一ねんせい	(1)－1入学のよろこび	儀式的行事
		(1)－2小学生としての自覚	
		(1)－3学校の先生	
		(1)－4挨拶	
		(1)－5新しい集団生活に対するオリエンテーション	学級活動（1）ウ
(2)	みんなのきょうしつ	(2)－1新しい環境	
		(2)－2返事	
		(2)－3最小限のもちもの	
		(2)－4所有物と記名	
		(2)－5うけもちの先生	

(3)	がっこうへいくみち	(3)-1登下校の道	学級活動 (2) カ
		(3)-2危険な場所	
		(3)-3道草	
		(3)-4友達	
(4)	たのしいがっこう	(4)-1学校の施設	
		(4)-2特別教室	
		(4)-3上級生 (いろいろな勉強)	
(5)	はるのえんそく	(5)-1団体行動	遠足・集団宿泊の行事
		(5)-2レクリエーション	遠足・集団宿泊の行事
		(5)-3季節感覚	
		(5)-4昆虫や草花	
(6)	しんたいけんさ1	(6)-1楽しい遊び	
		(6)-2体格	
		(6)-3なかよしこよし	
(7)	しんたいけんさ2	(7)-1健康	健康安全・体育的行事
		(7)-2校医さん	健康安全・体育的行事
		(7)-3擁護婦さん	健康安全・体育的行事
(8)	よいしせい	(8)-1姿勢	健康安全・体育的行事
		(8)-2健康と姿勢とのつながり	健康安全・体育的行事
(9)	なんでもたべよう	(9)-1偏食	学級活動 (2) キ
		(9)-2食事をとる態度	学級活動 (2) キ
		(9)-3清潔	学級活動 (2) キ
		(9)-4栄養	学級活動 (2) キ
(10)	こいのぼり	(10)-1体育	健康安全・体育的行事
		(10)-2競技のしかた	健康安全・体育的行事
		(10)-3協力	健康安全・体育的行事
		(10)-4誕生暦	
		(10)-5元気な子供	
(11)	あさからばんまで	(11)-1一日の生活	学級活動 (2) イ
		(11)-2規律	学級活動 (2) イ
		(11)-3よい習慣	
		(11)-4お手伝	
(12)	たなばた	(12)-1年中行事	学校行事 (伝承的)
		(12)-2天体に関心をもつ	
		(12)-3工作	
		(12)-4近所の人との楽しみ	
(13)	うれしいなつやすみ	(13)-1夏休みの生活指導	学級活動 (2) イ
		(13)-2お手伝	
		(13)-3遊び	
		(13)-4季節感覚	
		(13)-5旅行	

(14)	てんらんかい	(14)－1工作	
		(14)－2採集	
		(14)－3陳列会	
		(14)－4友達の作品	
(15)	わたくしのうち	(15)－1家族	
		(15)－2いろいろな職業	
		(15)－3仕事の分担	
		(15)－4手伝	
(16)	ともだちのうち	(16)－1友達	
		(16)－2いろいろな職業	
		(16)－3社会のつながり	
(17)	とりいれ	(17)－1農業	
		(17)－2勤労の尊さ	勤労生産・奉仕の行事
		(17)－3感謝	勤労生産・奉仕の行事
		(17)－4交通	
		(17)－5学校園	
(18)	いなかとまち	(18)－1町と農村のつながり	
		(18)－2生産と消費	
		(18)－3家畜	
(19)	あきまつり	(19)－1季節感覚	
		(19)－2親類	
		(19)－3近所のつきあい	
		(19)－4果物	
(20)	ふゆのしたく	(20)－1生活設計	
		(20)－2自然に適應する	
		(20)－3冬の衣食住	学級活動（2）カ
(21)	ゆきやこんこ	(21)－1子供は風の子	
		(21)－2季節感覚	
		(21)－3冬の遊び	
		(21)－4歌曲	
(22)	ひのようじん	(22)－1冬の衛生	
		(22)－2採暖の工夫	
		(22)－3火の用心	
		(22)－4消防夫	
(23)	おしょうがつ	(23)－1年中行事	
		(23)－2家庭生活とレクリエーション	
		(23)－3親類	
(24)	まめまき	(24)－1行事と生活	学校行事（伝承的）
		(24)－2社会の慣習について	
		(24)－3工作	
		(24)－4数え方	

(25)	このごろのおてんき	(25)-1季節感覚	
		(25)-2ひなまつり	学校行事 (伝承的)
		(25)-3遠隔地への関心	
(26)	もうすぐ、二ねんせい	(26)-1新しい希望	学級活動 (2) ア
		(26)-2反省	学級活動 (2) ア
		(26)-3引継ぎ	学級活動 (2) ア
		(26)-4学芸会	文化的行事
		(26)-5プログラム	文化的行事

表 10. 教育出版 (1952)

	単元項目	内容項目	特別活動内容
(1)	きょうから一ねんせい	(1)-1入学のよろこび	儀式的行事
		(1)-5新しい集団生活に対するオリエンテーション	学級活動 (1) ウ
(2)	みんなのきょうしつ	(2)-1新しい環境	学級活動 (2) ア
		(2)-2返事	学級活動 (2) ア
(3)	がっこうへいくみち	(3)-1登下校の道	学級活動 (2) カ
(4)	たのしいがっこう	(4)-1学校の施設	学級活動 (2) ア
		(4)-2特別教室	学級活動 (2) ア
		(4)-3上級生 (いろいろな勉強)	学級活動 (2) ア
(5)	はるのえんそく	(5)-1団体行動	遠足・集団宿泊の行事
		(5)-2レクリエーション	遠足・集団宿泊の行事
(7)	しんたいけんさ2	(7)-1健康	健康安全・体育的行事
		(7)-2校医さん	健康安全・体育的行事
		(7)-3擁護婦さん	健康安全・体育的行事
(8)	よいしせい	(8)-1姿勢	健康安全・体育的行事
		(8)-2健康と姿勢とのつながり	健康安全・体育的行事
(9)	なんでもたべよう	(9)-1偏食	学級活動 (2) キ
		(9)-2食事をとる態度	学級活動 (2) キ
		(9)-3清潔	学級活動 (2) キ
		(9)-4栄養	学級活動 (2) キ
(10)	こいのぼり	(10)-1体育	健康安全・体育的行事
		(10)-2競技のしかた	健康安全・体育的行事
		(10)-3協力	健康安全・体育的行事
(11)	あさからばんまで	(11)-1一日の生活	学級活動 (2) イ
		(11)-2規律	学級活動 (2) イ
		(11)-3よい習慣	学級活動 (2) イ
		(11)-4お手伝	学級活動 (2) イ
(12)	たなばた	(12)-1年中行事	学校行事 (伝承的)
(13)	うれしいなつやすみ	(13)-1夏休みの生活指導	学級活動 (2) イ
		(13)-2お手伝	学級活動 (2) イ

(14)	てんらんかい	(14)－3陳列会	文化的行事
		(14)－4友達の作品	文化的行事
(17)	とりいれ	(17)－2勤労の尊さ	勤労生産・奉仕の行事
		(17)－3感謝	勤労生産・奉仕の行事
(20)	ふゆのしたく	(20)－3冬の衣食住	学級活動（2）カ
(24)	まめまき	(24)－1行事と生活	学校行事（伝承的）
(25)	このごろのおてんき	(25)－2ひなまつり	学校行事（伝承的）
(26)	もうすぐ、二ねんせい	(26)－1新しい希望	学級活動（2）ア
		(26)－2反省	学級活動（2）ア
		(26)－3引継ぎ	学級活動（2）ア
		(26)－4学芸会	文化的行事
		(26)－5プログラム	文化的行事

4. 総合的分析と考察

東京書籍（1952）と教育出版（1952）の2社について前項でそれぞれ分析を行ったところ、共通するところと異なるところについてまとめ、総合的分析と考察を行う。表11は特別活動の内容からとらえた分析である。

東京書籍は、学級活動に関連する項目割合が25.5%であり、学校行事に関連した項目割合は21.3%である。これらを合わせた割合は、46.8%である。

教育出版は、学級活動に関連する項目割合が13.0%であり、学校行事に関連した項目割合は18.0%である。これらを合わせた割合は、31.0%である。

これらを比較すると、東京書籍の副読本は特別活動関連の割合が高いことがわかる。学級活動関連項目が全体の1/4を越え、学校行事関連は1/5を越え、全体では50%近くが特別活動関連内容といえる。一方、教育出版は、学級活動関連項目が少なく、東京書籍の半分ほどである。しかし、学校行事関連項目は東京書籍より割合が高い。特筆すべきは、前述しているが、「健康安全・体育的行事」の項目数の多さである。

2社の項目数を合わせたものが表12である。この2社の合計で考えることで平均値で考えることができる。学級活動関連項目は17.0%であり、学校行事関連項目が19.0%である。また、2社のすべてでの特別活動関連項目の割合は36.1%である。このことは1/3を越える項目が特別活動関連項目ということである。

これらのことからいえることは、小学校社会科の1年副教材がいかに現行の特別活動と内容が重なっているかということである。これらの項目から集団指導的要素、個人指導的要素、学校行事的要素が少しずつ社会科から分離され、学校行事が独立し、新たな領域として特別教育活動が生み出されたことが理解できる。そして、その後、学校行事は特別教育活動に吸収され、特別活動という名称に変更していったのである。

社会科とは何か、特別活動とは何か、生活指導とは何か。これらは児童の生活を中心とした本来融合していた広領域であったといえる。それは時を経て、再度生活科として社会科を作り替え

たとも考えられる。それは当初の社会科から精選を繰り返し削り取ったものを再度検討して生活科という新しいコンセプトで作り直しているともいえる。そしてこの広領域は、現在、OECDをはじめ世界中が取り組んでいる汎用的能力いわゆるコンピテンシーに近い考え方である。汎用的能力の考え方は、教科等の固有性のある学力とは別に広領域での共通能力という考え方である。これからの時代は、教科固有の知識の上にそれらを活用できる汎用的能力が重要であると考えられている。そのように考えると汎用的能力の育成にとって社会科、特別活動、生活指導、生活科は、分化させるところと融合させるところの再検証が必要となるだろう。

表 11.

学級活動	東書 (47)	教出 (100)	学校行事	東書 (47)	教出 (100)
学級活動 (1) ア			儀式的行事	1	1
学級活動 (1) イ			文化的行事	2	2
学級活動 (1) ウ	2	1	健康安全・体育的行事	1	8
学級活動 (2) ア		3	遠足・集団宿泊的行事	1	2
学級活動 (2) イ	3	3	勤労生産・奉仕的行事	2	2
学級活動 (2) ウ			(伝承的行事)	3	3
学級活動 (2) エ	3				
学級活動 (2) オ					
学級活動 (2) カ	4	2			
学級活動 (2) キ		4			
学級活動関連数 (A)	12	13	学校行事関連数 (B)	10	18
総項目数に対する学級活動 関連数の割合	25.5%	13.0%	総項目数に対する学校行事 関連数の割合	21.3%	18.0%
			総項目数に対する特別活動 関連総数 (A+B) の割合	46.8%	31.0%

表 12.

	東京書籍	教育出版	
学級活動	12	13	17.0%
学校行事	10	18	19.0%
	46.8%	31.0%	36.1%

さいごに

小学校1年社会科と特別活動の内容は重なるところが多い。これが本研究のモチーフである。本研究ではその重なりを調査対象とした。また、教科書がないということも特別活動との共通点である。低学年社会科に関して次のような記述がある。「低学年の社会科は現場のもてあまされたものの一つだ、とはよく聞かされることである。」⁽⁹⁾「「時間があまって困る」「何をやったらいいのか迷っている」」⁽¹⁰⁾ この2つの記述は、特別活動と共通する。キーワードは言葉としては

記述されていないが「教科書（副読本）」である。

当時の文部省は低学年社会科は教科書による知識の教え込みではなく教科書を使用しない経験学習中心のカリキュラムを考えていた。そのカリキュラムは現場にゆだねられていた。現在の特別活動と同様である。教科書がない状態でのカリキュラム作成は、自由度が高く、理想的ではある。しかし、教科書がある状態に比べ難易度は極めて高い。想像力と意欲の高い教員でないとカリキュラム作成も授業も難しい。

一方教員数は昭和30年代の小学校教員34万人、現在40万人以上である。このすべての人間が想像力と意欲に満ちあふれているだろうか。教師を志し教師を職としているのであればそうであるべきである。しかし現実には、一般企業と同様で様々な創造力と意欲のレベルの教師で構成されている。そして創造力と意欲が「普通」の教員が大きな割合を占めているのが現実である。普通の教員にとって教科書がないことはつらい。そこで2年の教科書が作成され、1年の副読本が作成されたのである（自由度を保つため教科書とせず副読本にとどめたのであろう）。

教科書検定から免れた1年副教材は教科書会社のある程度の自由裁量の幅で作成された。その自由度の例として、たとえば日本書籍（1971）の1年副読本があげられる。副題に「たろうとはなこ」とあり、その二人が全編通して物語風に進み、「ほくときみ」から始まり、「きみもほくも」で終わる1冊の本として作成されている。表紙、挿絵ともすべて画家・絵本作家である「いわさきちひろ」によるメルヘンタッチであり、教科書のイメージからほど遠い。

本研究を通して、1年社会の多様性と可能性をあらためて確認できた。本研究では特別活動との関係性に着目したが、これからの社会科の原点を考える上で、そして特別活動や生活科のこれからの方向性を模索する上で、再認識して再検証することが必要ではないだろうか。

（引用文献）

- （1）海後宗臣『あたらしい シャカいか 一ねん』東京書籍（1952（昭和27））
- （2）宗像誠也『シャカいか 1年 なかよし』教育出版（1952（昭和27））
- （3）海後宗臣『あたらしい シャカいか 一ねん』東京書籍p.47（1952（昭和27））
- （4）宗像誠也『シャカいか 1年 なかよし』教育出版p.48（1952（昭和27））
- （5）海後宗臣『日本の教育100年』東京書籍株式会社pp.186-187（1963）
- （6）同上 p.183
- （7）滋賀大学附属図書館『近代日本の教科書のあゆみ』サンライズ出版p.151（2006）
- （8）片上宗二『日本社会科成立史研究』風間書房pp.812-813（1993）
- （9）山下国幸『準備期の社会科』鳩の森書房p.5（1971）
- （10）同上p.5

（参考文献）

- （1）大塚三七雄『新しい学校』同楽社（1946）
- （2）金透小学校『新しい学校』健文社（1948）
- （3）金透小学校『新しい教室』健文社（1948）
- （4）石橋勝治『一年生の教室記録』社会書房（1949）
- （5）歴史教育者協議会『たのしくわかる社会科1年の授業』あゆみ出版（1978）

- (6) 歴史教育者協議会『社会科1・2年の授業』あゆみ出版(1981)
- (7) 古川清行『子どもが生きる授業 社会一年』小学館(1983)
- (8) 西村文男(編著)『学級を生かす社会科の授業 1年』教育出版(1984)
- (9) 佐々木勝男(編著)『授業づくりの技術と実践 小学1年社会科』あゆみ出版(1988)
- (10) 社会認識教育学会『改訂新版 初等社会科教育学』学術図書出版社(2006)
- (11) 社会認識教育学会『小学校社会科教育』学術図書出版社(2010)